

未来へ(東中だより)

第17号 令和4年2月1日

吉野ヶ里町立東脊振中学校 校長 森田 直樹

学校教育目標 未来へ
「知性・感性・耐性」を
共に高める生徒の育成



TEL:0952-52-2529 Fax:52-8184

<https://www.education.saga.jp/hp/higashifuri-j/>

宇宙の片隅で 志をもって 全校集会の話から(一部省略)

1月26日の全校集会は校長室から教室へのリモートで行いました。新型コロナウイルスの感染防止のためです。冒頭に、「感染された人やその家族は大変打ちひしがれています。そのような人たちのことを興味本位に噂をしたり詮索をしたりして、傷つける人はいませんよね。」と人の心に思いをはせることの大切さについて話しました。その後以下のような講話を行いました。

宇宙探査機のはやぶさ1号・2号を知っていますか。調査した小惑星は「イトカワ」と「リュウグウ」と呼ばれています。この探査に関わっている先生の話を知ることがありました。その先生は新井康平佐賀大学名誉教授、なんと佐賀の先生です。JAXAとNASAの仕事やアリゾナ大学の惑星探査に加わられている先生です。「眼でパソコン入力する」システムを作った人としても有名です。

「はやぶさプロジェクト」ってお金も労力も大変なものだそうですが、なんのためにそんなことをしているのでしょうか。採取したサンプルを分析することで、太陽系の起源や進化の解明、生命の原材料物質の解明をするためだそうです。宇宙の片隅の地球の、その片隅の日本の、そのまた片隅の佐賀の地でも、そんな大きなことができるのだ。人間はどこにいたって、志をもってさえいればいい仕事ができるのだと改めて思い知らされました。

新井名誉教授によると、地球をくまなく見る「地球観測衛星」が50機飛んでいるそうです。地球環境のためということでした。観測衛星と交信してデータを集める基地局が、佐賀大学の理工学部の中にあるそうです。今や酸性雨の被害は甚大であり、毎年ヨーロッパの50~60%の森林が被害を受けています。新井先生の計算によると、2100年には温暖化で21cm~48cm海面が上昇するとのことでした。その抑止のために科学がなにをすべきかを真剣に考えておられました。

地球誕生から48億年、人類誕生から約300万年、中学生が生まれてから13~15年です。宇宙や地球の歴史からするとほんの小さな存在ですね。しかし、小さな存在なりに「宇宙の片隅」で、夢や目標、あるいは「志」をもって活動することが、自分の進歩につながり、ひいては人間の進歩や社会のためになるということを考えさせられました。3学期も、はや1ヶ月を過ぎます。みなさんも自らを伸ばすための目標や「志」をもち、小さなことからチャレンジしてください。



はやぶさ1号 はやぶさ2号
「イトカワ」 「リュウグウ」



新井康平 名誉教授

JAXA+環境省
プロジェクト
GOSAT



宇宙観測人工衛星
→地球環境の変化をとらえる

地球誕生から...48億年

人類誕生から...約300万年

私の誕生から...〇〇年

しかし、小さな存在なりに夢・目標
・志をもち、進歩していくのみ

3年生 入試に向けて

1月20日は県内私立高校の前期入試でした。多くの生徒がこの日に入試の第一歩を踏み出します。中には、この日に第1希望の学校を定め、努力してきた生徒もいます。急な欠席や大きなトラブルがなく私立前期入試が終わり、ほっとしました。3年生は次の目標に向けて、勉強を頑張っています。2月3日の私立後期入試に挑む生徒、2月8日の県立特別選抜に挑む生徒にとっては、この数日が大切な時となります。健闘を祈ります。



オンライン授業 1月26日

本校では定期的にタブレット端末を活用したオンライン授業を行っています。長期の臨時休業になった場合に、授業形態を切り替えるためです。ほぼ全ての教師が授業実践を経験し準備は万端です。

